

第1回：TRIZって何？ <連載より要点のみを抜粋>

はじめに

「TRIZ(トゥリーズ)? ああ、ちょっと前ブームになったロシア生まれの発想法ね。でも今はあまり聞かないな。」 「なんでも特許をベースにしたアイデア発想法みたいだけど、結局だめだったよ…。」しかし、今また TRIZ が熱い。多くの企業で成果を生み出し始めたのだ。そのヒントは、TRIZ を発想のための手法を単品で扱うのではなく、問題解決への一連の思考プロセス化することだった。企業復活のキーワードともいえるイノベーションと、それに大きな効果を与える TRIZ を使った思考プロセス。私たちが、どのようにして使える TRIZ に変えたかを、6回の連載で書く予定なので、各自の創造性を高めるヒントになれば幸いである。

TRIZ とは？

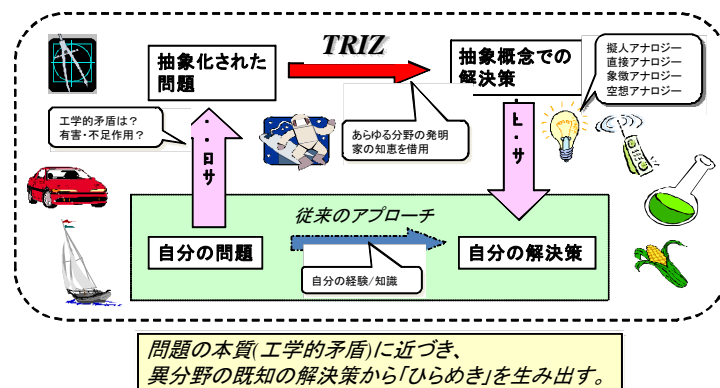
TRIZ は、ロシア語の「Теория Решения Изобретательских Задач」(テオーリア・リシェーリア・イザブレタチェルスキフ・ザダーチ)の、頭文字をアルファベット表記したものである。これを英訳表記すると「Theory of Inventive Problem Solving」だから、直訳すると「発明的問題解決の理論」となる。アルトシュラー達は、250万件の特許情報を分析した結果、「技術的問題に対する人間の思考にはパターンがみられる。」ことに気付いた。そしてそれらは、大きく以下の3つである。

1. 技術システムの解決策は、分野を超えてパターン化できる。= 発明原理
2. 技術システムの進化の法則は、分野を超えて繰り返される。= 技術進化のパターン
3. 革新的な解決策は、他の分野の知識を活用して生まれた。= 科学的知識 DB

この3本柱が、TRIZ の基礎概念を構成する。

250万件の特許分析の結果わかった事。

- ①問題とその解決策は、産業/科学の分野を超えて繰り返される。
- ②技術進化のパターンは、産業/科学の分野を超えて繰り返される。
- ③技術革新は、当該分野以外の科学法則を利用している。



図：TRIZ 理論の概念図

要は、「他人のふんどしで相撲が取れて、しかも勝てるのなら使わない手はないでしょう?」と言うことになる。もちろん、そこには問題を解決したいと真剣に考える技術者でなければ、いくら他人のふんどしが良くてもダメなのだが…。

(詳細は、http://www.idea-triz.com/kikaisekkei_rensai.html を参照)